氏　　名	伊藤　智子
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第４６０号
学位授与年月日	平成２８年３月２５日
審査委員	主査　教授　　石橋　　豊
	副査　教授　　織田　禎二
	副査　教授　　大平　明弘

論文審査の結果の要旨

高血圧は様々な臓器障害を引き起こすためその治療は重要である。しかし降圧剤服用者の中で血圧コントロールが出来ているものは4割程度であり決したて良いとはいえない。高血圧の最大のリスクとして過剰な食塩摂取が挙げられるが、申請者らは降圧剤服用者の血圧コントロールにも食塩摂取が重要であるとの仮説を立て、降圧剤服用者の一日食塩摂取量が血圧に影響を与えているかどうかを明らかにする目的で研究を行った。この研究は、島根大学疾病予知予防プロジェクト Shimane CoHRE Study の一つとして行ったものである。2012年の3自治体での特定健診受診者1496名（男570名，女926名）を対象とし、一日食塩摂取量は随時尿を用いて Tanaka ら(2002)の推定式にて算出した。単回帰分析で、降圧剤服用群・非服用群両群にて、食塩摂取量は収縮期血圧と正の有意な関係が認められた。これは、重回帰分析において年齢、性別、BMI、身体活動量などの交絡因子を調整した後でも有意であった（非服用群：非標準化係数 1.45 ± 0.26, $p < 0.001$；服用群：非標準化係数 0.75 ± 0.27, $p = 0.01$）。さらに、脈圧との重回帰分においても食塩摂取量は降圧剤非服用、服用両群において有意な正の関係を示した。以上の結果から、降圧剤服用者においても食塩摂取量は収縮期血圧および脈圧に影響を与える独立因子であることが明らかとなり、降圧剤服用者の血圧コントロールに降圧剤服用と並行した減塩が効果的である可能性が示唆された。従来の疫学研究では、集団全体の平均血圧をわずか2 mmHg 低下させることで脳卒中死亡が6%低下すると言われている。本研究は降圧剤服用者でも減塩によってより良い血圧コントロールを可能とし、ひいては高血圧合併症を減らすことが出来ることを示唆する意義ある研究である。